

令和 6 年 6 月 19 日現在

機関番号：32702
 研究種目：基盤研究(C)（一般）
 研究期間：2019～2023
 課題番号：19K00259
 研究課題名（和文）カルチュラル・アサイラムー中国インディペンデント・ドキュメンタリーの位相空間

 研究課題名（英文）Cultural Asylum: Topology of Chinese Independent Documentary

 研究代表者
 秋山 珠子（AKIYAMA, Tamako）

 神奈川大学・外国語学部・准教授

 研究者番号：80422385
 交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、中国インディペンデント・ドキュメンタリーを対象に、「カルチュラル・アサイラム」という新たな枠組みを導入することによって、イリベラルな社会における非公式文化生産のダイナミズムを解明することである。当初研究の重点は、映画産業促進法施行(2017年-)に代表される、国家による規制強化とアサイラム収縮の実態把握に置かれていたが、予期せぬパンデミックの中、オンラインや日本国内での調査に比重を置き、アサイラムの他領域への移行、中国国外への離散の状況、中国国内でのオンライン・プラットフォームの形成、日本との交接が果たした機能など、複合するアサイラムの生存戦略の諸相を明らかにすることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、中国インディペンデント・ドキュメンタリーの形成と変遷を詳細に分析し、「カルチュラル・アサイラム」という新たな概念を提示することにより、非公式文化がいかんして公的文化と共存し、時に衝突しながらも存続してきたかを究明した点にある。特に、映画産業促進法施行後における独立映画制作者たちの生存戦略の分析を通じ、非公式文化の動態に関する新たな知見を提供し得た。
 社会的意義としては、本研究が日本国内における中国インディペンデント映画の上映機会とディスカッションの場を創出したことで、現代における芸術表現の可能性を広げ、国際的・領域横断的な文化交流を促進したことが挙げられる。

研究成果の概要（英文）：The purpose of my research is to elucidate the dynamics of unofficial cultural production in illiberal societies by studying Chinese independent documentary through the new framework I call "cultural asylum." Initially, the focus of the study was on grasping a situation where the tightening of state regulation--as exemplified by the Film Industry Promotion Law of 2017--resulted in a concomitant shrinking of asylums. However, amidst the pandemic, the emphasis shifted to online and Japan-based investigations. This resulted in the unexpected clarification of various aspects regarding the complex survival strategies of cultural asylums. These included the shifting of asylums to other regions, separating from China altogether, the formation of online platforms within China, and the functions played by interactions with Japan.

研究分野：地域研究（中国）、カルチュラル・スタディーズ、芸術一般、芸術実践論、映像翻訳

キーワード：中国 映画 ドキュメンタリー インディペンデント映画 中国映画 アジア映画 ディアスポラ アサイラム

1. 研究開始当初の背景

1949年の建国以来、中国ドキュメンタリーは、国家イデオロギーの重要な宣伝メディアであり、国営テレビ局や映画撮影所のみが制作権限を有してきた¹。その中国で、文革後の社会的モビリティの増大とともに、国から斡旋された所属機関(単位)を離れ、個人が制作した最初期のインディペンデント・ドキュメンタリー(呉文光『流浪北京』)が誕生したのが1990年。以来、低予算・ローテクノロジー・検閲未通過の個人制作の作品群は、制作においては基本的には国の統制を受けずに質的・量的な成長を遂げ、流通においては公的放映・配給網の外部に独自のネットワークを形成した。とりわけ、2000年代以降、デジタル機器の普及に伴い、映像制作のハードルが格段に下がると、現代美術・文学・報道・社会運動、研究者・学生など多様な領域や身分の人材がドキュメンタリー制作に参入し、公式メディアとは異質のリアリティを描き出す作品群が国際映画祭で次々と受賞を果たし、中国国内に複数の民間映画祭やアーカイブが誕生するなど、中国インディペンデント・ドキュメンタリーは非公式文化生産のホットスポットとして拡大・成長していった。しかし2008年前後から当局は徐々に規制に転じ、2017年3月ついに、インディペンデント映画の制作と流通を罰則規定を設けて規制する電影産業促進法(以下「映画法」)が施行されると、当該領域は急速に収縮し、他領域・国外への人材流出が相次いだ。

先行研究の多くは、中国インディペンデント・ドキュメンタリーを支配層に対する抵抗言説として分析したが²、報告者が1990年代初期の草創期より参与観察を行ってきた当該領域には、支配/被支配の二項対立枠組では説明し得ない現象や作品が遍在していた。例えば2000年代には、検閲未通過の多くの作品が、しばしば公的機関と連携した民間映画祭で上映され、監督や映画祭組織者の中には公的機関に所属する者も多く、新聞・雑誌などの公的メディアは作品や監督を積極的に報道し、作品の中には抵抗言説という枠組みでは十全に解析し得ない実験性を有するものが少なからず含まれていた。

歴史学や社会学は、「アジール」³や「アサイラム」⁴という概念を用い、寺院や市や病院など、世俗的な権力の支配から相対的に独立した「聖域/自由領域/避難所」の存在を論じてきた。報告者はこれを参照し、現代中国に断続的に発生する複数の文化・芸術のホットスポットー中国インディペンデント・ドキュメンタリーもその一つであるーを、支配層の支持・黙許により、一時的かつ相対的な創造的自由を獲得した非公式文化生産領域＝「カルチュラル・アサイラム」ととらえる新たな概念を着想し、2014年から科研課題「カルチュラル・アサイラムー中国インディペンデント・ドキュメンタリーの生成と流通」に着手し、検閲未通過作品を上映した民間映画祭・大学・美術館等が果たしたアサイラムとしての機能と、そこでこそ可能となった芸術実践の諸相の調査・分析を進めてきた⁵。

2. 研究の目的

しかし、先の科研課題開始時には予測しなかった映画法の施行は、本研究にこの概念をさらなる調査研究により精緻化・理論化することに加え、極めて重要な課題をもたらすことになった。同法は、従来インディペンデント・ドキュメンタリーのアサイラムに許容されてきた、民間映画祭の開催、作品アーカイブの設置、大学内での上映、検閲未通過作品の国際映画祭出品などを全て法的に規制するものであり、それに伴い、以下の二つの差し迫った問いが浮上した。(1) 同法施行による当該アサイラムと作品制作への具体的影響は何か？(2) 当該アサイラム縮小後、代替アサイラムは形成されるのか？それは何か？

1989年の天安門事件直後、文化・芸術活動の極端な停滞の時代に、新興アサイラムとして生まれた中国インディペンデント・ドキュメンタリーは、映画法施行により、急速な収縮と他領域への移行・拡散へと向かいつつあった。本研究は、規制強化により研究資源へのアクセスが急速に困難化する中、報告者の人的ネットワークを活用した現地調査を実施し、前述の問いを究明し、中国インディペンデント・ドキュメンタリーの誕生→拡大→衰微/遷移までの包括的な歴史を検証することによって、イリベラルな社会における非公式文化生産のダイナミズムの一端を明らかにすることを旨とするものである。

3. 研究の方法

前述の「研究の目的」を達成するため、本研究は当初、中国および関連地域における現地調査を主要な方法として、映画産業促進法施行(2017年-)に代表される、国家による規制強化とアサイラム収縮の実態把握を企図していた。実際、研究初年度である2019年度には、杭州(浙江伝播学院)、上海(上海国際映画祭)、山形(山形国際ドキュメンタリー映画祭)、名古屋(あいち

¹ 呂新雨、『記録中国：当代中国新記録運動』、生活・読書・新知 三聯書店、2003。

² 主要な研究として、Berry, Chris, Xinyu Lü and Lisa Rofel., *The New Chinese Documentary Film Movement*, Hong Kong University Press, 2010; Robinson, Luke. *Independent Chinese Documentary*, Palgrave, 2013.

³ 網野善彦、「中世「芸能」の場とその特質」、『網野善彦著作集 第十一巻 芸能・身分・女性』岩波書店、1984。

⁴ ゴッフマン、アーヴィング、『アサイラムー施設被収容者の日常世界』、誠信書房、1984。

⁵ 主な成果として、秋山珠子、「カルチュラル・アサイラムー中国インディペンデント・ドキュメンタリーの透明な砦」、『大衆文化』第16号、2017。

女性映画祭、あいちトリエンナーレ)、大阪(大阪アジア映画祭)、東京(東京 Filmex、恵比寿映像祭)の各地で当事者インタビューを含む調査を行い、アサイラム衰微の諸相、公的文化との共生の試み、現代美術など他領域との協同の状況などについて、具体的事例の把握・検討を進めた。

しかし予期せぬパンデミックは、報告者に現地調査計画の大幅な変更を余儀なくさせただけではなかった。引き続き 2020-2021 年度、オンラインを活用した調査を積極的に進めた結果、中国国内においては、新規オンライン・プラットフォームの創出という、パンデミック下における新たなアサイラムの生存戦略が模索・実践されていることが次第に明らかになったのである(草場地工作站など)。同様の戦略は中国国外でも観察された。イギリス(CIFA)やアメリカ(現象工作室)など海外拠点が展開するオンライン・イベントや上映会は、国家の規制強化を経て一層増加する海外移住者と中国国内関係者の交流を促進するプラットフォームとして機能しつつあった。なお、こうしたオンライン・プラットフォームを通じた国外研究者との交流機会の増大は、報告者において、当該分野における世界の研究動向の把握と研究ネットワークの拡充につながった。

また海外渡航に代え、日本国内での調査を積極的に進めた結果、1990 年代以降日本が中国インディペンデント・ドキュメンタリーのアサイラム形成に果たした重要な機能に光を当てることとなった。具体的には、『華語独立映像観察/Chinese Independent Cinema Observer (CICO)』創刊号である日中特集の共同編集を担ったことから、日本の主要な映画祭ディレクターや監督、テレビ・映画関係者で行ったディスカッションや原稿依頼を通じ、中国インディペンデント映画の存続と発展に果たした日本の多層的な役割について貴重な証言を得ることができた。

2022-2023 年度は、入国制限の解除が進む欧米地域を中心に、当初本研究が想定していた課題に加え、前年度までのオンライン調査で観察された、増加する移住者らによる中国国外アサイラム形成の実相を捉えるべく、延期していた渡航調査を再開した。後述する国際会議参加の機会などをとらえ、ベルリン(C/LENS)、パリ(王兵スタジオ)、ケンブリッジ(アイ・ウェイウェイ・スタジオ)、ニューカッスル(CIFA)の各所で調査を行い、移住および招聘中国人映画祭関係者インタビューと作品収集を行ったほか、カッセル・ドクメンタ、ベルリン・ビエンナーレ、ベネチア・ビエンナーレという主要国際芸術展を調査し、現代美術とドキュメンタリーの交接、パンデミック前後の政治と芸術の位相変化について重要な知見を得ることができた。米国では、世界有数の実験映画祭である Ann Arbor Film Festival での監督インタビューと作品鑑賞を通じ、在米中国人監督の世代ごとの特質把握に努めた。さらに、中国国内におけるオンライン・プラットフォームに関する調査を継続し、作品把握を行ったのみならず、とりわけ草場地工作站、母親影展(Film for Mother)においては組織者へのインタビュー実施のほか、定期的にワークショップに参加し、講演者や審査員等として招聘されるなど、参加者の立場からその生成と変化に立ち会う機会を得た。日本国内では東京国際映画祭、東京 Filmex、イメージフォーラム・フェスティバル、山形ドキュメンタリー道場、山形国際ドキュメンタリー映画祭、大阪アジア映画祭等で関係者インタビューを含む現地調査を行い、パンデミックに伴うアサイラム消長と作品制作のアクチュアリティをとらえるべく努めた。とくに山形国際ドキュメンタリー映画祭では、増加する中国人観客への聞き取り調査を行い、アサイラムの国外への拡張現象を検証した。

4. 研究成果

(1) パンデミック以前

映画法施行によるアサイラム収縮と遷移の実態解明のため、2019 年度、浙江・上海での調査と作品・文献収集を行い、新たなコミュニティ形成や現代美術との連携の試みについての知見を鼎談(秋山珠子, 土屋正明, 中山大樹, 「中国インディペンデント・ダイレクト・シネマの過去・現在・未来」neoneo, Vol.11, 2018 年 7 月)や招待講演(「民間」における非公式文化生産—中国インディペンデント・ドキュメンタリーを例に」, 第 69 回日本現代中国学会, 関西学院大学, 2019 年 10 月 19 日)の形で発表した。また同年オランダで開催された ICAS11 (2019 年 7 月 18 日, ライデン大学)では Ma Ran (名古屋大学)と共同で、当該分野研究を切り開く日・米・英・中・韓の若手および中堅研究者らを招集したラウンドテーブル“Realigning Chinese Independent Cinema(1989-2019)”を組織し、世界各地の研究状況と最新成果を共有した。またそれらを比較・対照するディスカッションにおいて、日本の映画祭が中国インディペンデント映画の生産と流通において担った重大な役割への海外研究者の関心を喚起したことが前述の『CICO』日中特集号の構想を導くこととなった。日本国内では、Docu Mement との協力により、王我監督を招聘したレクチャー「多重露光：折り重なる中国イメージ」(神奈川大学, 2019 年 10 月 24 日)を開催したほか、学会や映画祭と連携し、王我『映画のない映画祭』(日本現代中国学会, 前掲)、白雪『クロッシング/過ぎた春』(大阪アジア映画祭 2019、あいち女性映画祭 2019)、楊荔娜『春潮』(大阪アジア映画祭 2020)の上映機会を創出した。

(2) パンデミック期

2019 年末からのパンデミック期の主要な研究成果は、前述したように、次の 2 点に集約される。

1 点目は、移動制限下に増加した中国内外のオンラインを活用した創作および研究活動への参与観察を積極的に進め、パンデミック時代のアサイラムの新たな生存戦略の究明に努めたこ

とである。その成果は、招待講演（オンライン研究フォーラム 2020「コロナ禍の文化と表現」、表象文化論学会, 2020年8月7日）や招待論文（「コロナ時代の非公式文化生産—中国インディペンデント・ドキュメンタリーを中心に」、『現代中国』第94号, 2021年）のほか、王楚禹監督を招いたオンライン座談会（「コロナ禍の演劇とドキュメンタリー」、東京大学, 2020年12月20日）、またオンラインによる国際学会（“Reading CCD Workstation”, AAS2023 Virtual, 2023年2月17日）を通して国内外に向け発信した。

2点目は、日本国内の映画・テレビ関係者との連携強化および関連する調査研究の推進である。とりわけ、顧問を務める CIFA 発行による学術誌『CICO』創刊号（前掲）を Ma Ran と共同編集し、日本の主要映画祭（山形国際ドキュメンタリー映画祭, 東京国際映画祭, 東京 Filmex, 大阪アジア映画祭, イメージフォーラムフェスティバルほか）の各プログラミング・ディレクターによる、それぞれの映画祭と中国インディペンデント映画を論じる書き下ろし記事のほか、日本と関連する中国人監督インタビュー、これまで十分注目されてこなかった、中国人監督による日本のテレビ・ドキュメンタリー制作に関する論考、日本で上映された中国インディペンデント映画の網羅的リストなどを掲載した、全 334 ページの『[日本と中国インディペンデント映画文化のコネクション\(1989-2020\)](#)』特集号(2021年)を中英2言語で発行し、全文をオンライン上に掲載した。また、同特集の出版記念オンライン・イベント「当代日本-中国独立電影文化的関聯」

（『華語独立影像觀察』発刊儀式以及網絡論壇, 2021年5月15日）を Ma Ran とともに企画し、野中章弘氏（アジアプレス）と、同氏と縁のある世代の異なる中国人監督、呉文光、馮艶、胡傑、季丹、房満満の各氏、および土屋昌明氏をゲストに招き、日本が中国インディペンデント・ドキュメンタリーの発展と存続に及ぼした影響を検討し、国内外で大きな反響を呼んだ。また既発表の英語論文に加筆した日本語論文「時空を越えた飛び火—小川紳介とアジア」を共著書『異文化社会の理解と表象研究』（専修大学出版局, 2022年）として公刊した。

なお、『CICO』特集で明らかになったように、日本の映画祭・芸術祭が持つ、中国インディペンデント映画の海外プラットフォームとしての重要性はパンデミック下においても発揮され、報告者は、これら映画祭・芸術祭に対面またはオンラインで参加する監督や関係者らの通訳やインタビューを積極的に行ったほか、「目撃!」中国インディペンデント・ドキュメンタリー」の招聘により来日した趙亮監督による『行くあてもなく』（2021）福島ロケ撮影を支援し、章夢奇『自画像：47KMのおとぎ話』（座・高円寺ドキュメンタリーフェスティバル14）、王楚禹『蟻の蠢き』（座・高円寺ドキュメンタリーフェスティバル15）の上映機会創出に携わった。

さらにこの間、中国語圏映画に多大な影響を及ぼす侯孝賢監督による『侯孝賢の映画講義』（みすず書房, 2021年）を、同監督と関係の深い日本の映画祭ディレクターやプロデューサーとの討議を経て翻訳出版し、同監督が中国語圏映画制作に与えた多大な影響、ドキュメンタリーとフィクションの相補的關係、政治および経済的制限下における芸術創作など、本研究課題に密接に関連する主題について得た知見を、同書訳者あとがきや招待講演の形で披露した。

(3) パンデミック以降

渡航制限が徐々に解除されるのに伴い、前述したパンデミック以前およびパンデミック期の成果を積極的に国際学会において発表し（“When Currents Collide: Chinese Independent Cinema and Japan”, AAS2022, 2022年3月26日, Honolulu; “The Living Archive: On CCD Workstation”, AAS in Asia 2023, 2023年6月25日, 大邱; Symposium: Overseas Circulation of Chinese Independent Films since the 1990s, CIFA Launch Program, 2023年9月28日, Newcastle; “Mothers Film Festival: Flipping Chinese Independent Documentary History”, 2024 SCMS Conference, 2024年3月16日, Boston）、海外研究者との活発な意見交換を行い、研究ネットワークの拡充をはかった。さらに、国内外のゲストを招いた映画上映会とディスカッションを神奈川大学、日本映像学会、山形国際ドキュメンタリー映画祭の協力を得て開催し（「物語の環境」、ゲスト：諏訪敦彦・山城知佳子・章夢奇, 2022年10月6日, 神奈川大学; 「台所のダンス 居間のファンタジー — パンデミック下の開かれた密室」、ゲスト：洛洛・李新月・ワダ・ミツヨ・マルシアーノ, 2023年10月23日, 神奈川大学）、広く一般に向けて成果を公開し、また現代美術・劇映画・演劇など隣接領域の専門家との活発な議論を行った。またこの間の研究成果を論文にまとめ発表した（「中国逸民の遺伝子——映像演劇『隔離された屋根』をめぐって」、『神奈川大学評論』101号, 2022年; 「ワクチンとしての物語——章夢奇のドキュメンタリー作品における女性の語りを手がかりに」、『動物×ジェンダー——マルチスピーシーズ物語の森へ』, 青弓社, 2024年）。以上に加えて、「主な発表論文等」に挙げる学会発表、研究論文および記事の執筆、各種招待講演等を通して本研究で得られた成果の公開を行い、総じて、相当の研究成果を達成することができたと判断する。

(4) 今後の展望

本研究を通して、中国インディペンデント・ドキュメンタリーの誕生から衰微/遷移に至る重要な過程を相当程度明らかにすることができた一方、報告者は、今後補うべき欠落の所在も明確に認識している。2019年度末のパンデミック以来、中国における渡航は制限され、現在も一部それが継続していることから、本研究が当初予定していた中国での調査は、研究初年度のそれのみにとどまることとなった。中国インディペンデント・ドキュメンタリーのアサイラムの包括的な歴史の検証を行うためには、中国国内におけるアサイラム消長の実態解明と、本研究がその所

在の一端を明らかにした、中国国外におけるアサイラム形成の実相の把握が欠かせない。この課題に取り組むべく、2024年度より本研究を継承・発展させた研究課題「パンデミック時代の非公式文化生産—中国インディペンデント・ドキュメンタリーの位相」（基盤研究C）を展開し、アサイラムの生存戦略を多方面から解析し、イリベラルな社会における非公式文化生産のダイナミズムのさらなる究明を目指していく。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計10件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 秋山珠子	4. 巻 101
2. 論文標題 中国逸民の遺伝子 映像演劇『隔離された屋根』をめぐって	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 神奈川大学評論	6. 最初と最後の頁 155-159
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 秋山珠子（構成・翻訳）・諏訪敦彦・山城知佳子・章夢奇・村井まや子	4. 巻 102
2. 論文標題 ディスカッション：物語・環境・創作をめぐって	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 神奈川大学評論	6. 最初と最後の頁 137-156
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 秋山珠子、馬然	4. 巻 43
2. 論文標題 「日本と中国インディペンデント映画文化のコネクション」公開オンライン・シンポジウム	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 REPRE	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 秋山珠子	4. 巻 94
2. 論文標題 コロナ時代の非公式文化生産 中国インディペンデント・ドキュメンタリーを中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 現代中国	6. 最初と最後の頁 5-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Akiyama Tamako	4. 巻 1
2. 論文標題 When Currents Collide: Chinese Independent Cinema and Japan (中国語版有り)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 華語独立影像觀察/Chinese Independent Cinema Observer	6. 最初と最後の頁 306-321
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 秋山珠子	4. 巻 1
2. 論文標題 囿于限制而生的自由 以《和鳳鳴》的字幕制作為例	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 華語独立影像觀察/Chinese Independent Cinema Observer	6. 最初と最後の頁 126-140
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 秋山珠子	4. 巻 1
2. 論文標題 点燃導火線的火苗: 中国紀錄片導演和懷斯曼的相遇	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 華語独立影像觀察/Chinese Independent Cinema Observer	6. 最初と最後の頁 84-86
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tamako Akiyama	4. 巻 no. 290
2. 論文標題 A Spark Beyond Time and Place: Ogawa Shinsuke and Asia	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ERIA Discussion Paper	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 秋山珠子	4. 巻 1
2. 論文標題 忘れられた少女と新鋭女性監督の、大胆な通過点	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 あいち国際女性映画祭2019パンフレット	6. 最初と最後の頁 12-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉川龍生 (編集・監訳・解説)、黄驥、大塚竜治、Victor Fan、How Wee Ng、中山大樹、秋山珠子	4. 巻 第13号
2. 論文標題 記録と創造、そして中国独立映画のこれから 日吉电影节2018黄驥・大塚竜治監督との対話から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 中国研究	6. 最初と最後の頁 59-99
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計40件 (うち招待講演 30件 / うち国際学会 24件)

1. 発表者名 Akiyama Tamako
2. 発表標題 Mothers Film Festival: Flipping Chinese Independent Documentary History
3. 学会等名 Society for Cinema and Media Studies (SCMS) 2024 Conference(Boston)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 秋山珠子、王楚禹、佐藤信
2. 発表標題 秋山珠子セレクション 『蟻の蠢き』
3. 学会等名 第15回 座・高円寺ドキュメンタリーフェスティバル (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 柴波、秋山珠子、韓燕麗、上田学、徐昊辰、戴周杰
2. 発表標題 異境人 中国インディペンデント映画と日本の交接
3. 学会等名 風雨同舟 日中映画交流の過去、現在、そして未来に向かって（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 秋山珠子、洛洛（ルオルオ）、李新月（リー・シンユエ）、ミツヨ・ワダ・マルシアーノ
2. 発表標題 台所のダンス 居間のファンタジー パンデミック下の開かれた密室
3. 学会等名 日本映像学会アジア映画研究会/中国語学科社会貢献事業（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Chris Berry, Karin Chien, Luisa Prudentino, Akiyama Tamako, Shelly Kraicer, Tammy Hung Cheung
2. 発表標題 Symposium: Overseas Circulation of Chinese Independent Films since the 1990s
3. 学会等名 Chinese Independent Film Archive (CIFA) Launch Programme (Newcastle, UK)（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 秋山珠子
2. 発表標題 交[換/歓]する言語
3. 学会等名 青山学院大学「中国文化論」（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Akiyama Tamako
2. 発表標題 The Living Archive: On CCD Workstation
3. 学会等名 AAS in Asia 2023(Daegu, Korea) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 秋山珠子
2. 発表標題 Mother to Be Shot--被拍[撮/射]的母親
3. 学会等名 母親影展2022 (オンライン) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 秋山珠子
2. 発表標題 編織記憶pin布：閲読「草場地工作站」
3. 学会等名 草場地工作站「線上礼拜天」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 秋山珠子
2. 発表標題 潮境—中国インディペンデント映画と日本の交接
3. 学会等名 青山学院大学「中国文化論」(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 秋山珠子（企画、司会）・諏訪敦彦・章夢奇・山城知佳子・村井まや子
2. 発表標題 ディスカッション「物語・環境・創作をめぐる」
3. 学会等名 Storied Environments 物語る環境（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Akiyama Tamako
2. 発表標題 When Currents Collide: Chinese Independent Cinema and Japan
3. 学会等名 京都大学「Transcultural Cinema Forum 2022」（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Guo-Juin Hong, Luo Zhou, Wenguang Wu, Mengqi Zhang, N. Pilarski, Akiyama Tamako
2. 発表標題 Lessons from the Pandemic: The Folk Memory Project and Digital Platforms for Arts and Social Movements
3. 学会等名 The Association for Asian Studies 2023 Annual Conference, Virtual（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 諏訪敦彦・章夢奇・秋山珠子
2. 発表標題 諏訪敦彦セレクション『47KMのおとぎ話』
3. 学会等名 座・高円寺ドキュメンタリーフェスティバル（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Tamako Akiyama, Ma Ran, Sabrina Qiong Yu, Fang Manman, Feng Yan, Hu Jie, Ji Dan, Nonaka Akihiro, Tsuchiya Masaaki, Wu Wenguang
2. 発表標題 Sino-Japanese Connections in Independent Film Cultures
3. 学会等名 Launch Event for the Bilingual Journal Chinese Independent Cinema Observer & Online Forum "Sino-Japanese Connections in Independent Film Cultures" (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 秋山珠子
2. 発表標題 コロナ時代の現実と「真実」をめぐって
3. 学会等名 青山学院大学「中国文化論」(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 秋山珠子
2. 発表標題 中国現代文化の諸相--コロナをめぐる複数の記憶
3. 学会等名 立教大学言語自由科目(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 秋山珠子、韓燕麗
2. 発表標題 不易流行--『HHH』から『侯孝賢の映画講義』へ
3. 学会等名 『HHH：侯孝賢』公開記念トーク(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 秋山珠子
2. 発表標題 コロナ時代のアサイラム--中国インディペンデント・ドキュメンタリーを例に
3. 学会等名 早稲田大学「アジア・ジャーナリズム論」(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Tamako Akiyama
2. 発表標題 The Liberty Coerced by Limitation: On Subtitling
3. 学会等名 Transcultural Cinema Forum (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 秋山珠子
2. 発表標題 偶然と選択: 翻訳者が語る『侯孝賢の映画講義』
3. 学会等名 日本映像学会アジア映画研究会(第3期第4回)(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 AKIYAMA Tamako
2. 発表標題 When Currents Collide: Chinese Independent Cinema and Japan
3. 学会等名 The Association for Asian Studies 2022 Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 秋山珠子
2. 発表標題 コロナ時代のアサイラム 中国インディペンデント・ドキュメンタリーを例に
3. 学会等名 表象文化論学会オンライン研究フォーラム2020 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 秋山珠子
2. 発表標題 《話説長江》の兩種版本
3. 学会等名 中国独立電影研究項目報告及會議 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Sabrina Yu, Lydia Wu, Luke Robinson, Chris Berry, Akiyama Tamako, Bao Hongwei, Karin Chien, Karen Chan, Kuo Li-Hsin, James Cummings, Li Tiecheng, Li Xiaofeng, Lin Xin, Gina Marchetti, Markus Nornes, Wang Libo, Gu Xue, Zhu Rikun, Ma Ran, Zeng Jinyan, Zhang Ping, Zhang Xianmin, et al.
2. 発表標題 華語独立資料館の館蔵、功能、策展内容与未来発展
3. 学会等名 華語独立影像資料館網站上線座談会 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 王楚禹, 秋山珠子
2. 発表標題 『被隔離的屋頂』をめぐるーコロナ禍の演劇とドキュメンタリー
3. 学会等名 東京大学「字幕翻訳演習」オンライン座談会 (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 秋山珠子
2. 発表標題 童話 vs ウィルスー河北省 “47km村” の定点観測
3. 学会等名 身体とジェンダー研究会（2021年度第2回）（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 秋山珠子
2. 発表標題 中国インディペンデント映画と日本
3. 学会等名 日本映像学会アジア映画研究会（第3期第4回）（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Akiyama Tamako, Markus Nornes
2. 発表標題 Toward a Sensuous Subtitling
3. 学会等名 The course of "Film, Television, and Media" at University of Michigan（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 秋山珠子, 趙書儀
2. 発表標題 コロナ禍の中国インディペンデント監督たち
3. 学会等名 独立映画鍋「金曜よる鍋」vol.25（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 秋山珠子
2. 発表標題 伸縮するグレーゾーン 現代中国における非公的文化生産のダイナミクス
3. 学会等名 神奈川大学人文学会新会員歓迎講演会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 秋山珠子
2. 発表標題 紀錄片作為一種文化傳播 以小川紳助為例
3. 学会等名 浙江伝媒学院紀錄片教育国際論壇（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Akiyama Tamako, Markus Nornes
2. 発表標題 紀錄片字幕翻譯過程的開設
3. 学会等名 浙江伝媒学院紀錄片教育国際論壇（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tamako Akiyama(Roundtable Convenor), Ran Ma(Roundtable Convenor), Hongwei Bao, Jungkoo Kim, Seio Nakajima, Shan Tong, Mark Nornes, Tiecheng Li
2. 発表標題 Realigning Chinese Independent Cinema (1989-2019): Intersecting Histories, Aesthetics, and Politics
3. 学会等名 ICAS 11 (11th International Convention of Asia Scholars) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 秋山珠子
2. 発表標題 「民間」における非公式文化生産 中国インディペンデント・ドキュメンタリーを例に
3. 学会等名 日本現代中国学会第 69回全国学術大会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 王我、秋山珠子
2. 発表標題 多重露光：折り重なる中国イメージ 王我（ワン・ウォ）監督を迎えて
3. 学会等名 神奈川大学中国語学科 社会貢献講演会（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 関強、秋山珠子
2. 発表標題 「炊煙（ちいやえんによによ） ボクが見た中国の“食”（ は「鳥」の下に「衣」）」をめぐって
3. 学会等名 立教大学言語B継続学習促進企画「世界を知ろう！」（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 秋山珠子
2. 発表標題 中国インディペンデント・ドキュメンタリー最前線
3. 学会等名 神奈川大学公開講座KUポートスクエア「過去から考える中国の現在・未来 建国70年、天安門事件後30年の変遷と課題」（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 秋山珠子
2. 発表標題 間に浮かぶ光 中国ドキュメンタリー 『鳳鳴—中国の記憶』の字幕翻訳をめぐって
3. 学会等名 東京女子大学学会公開連続講演会「映像を通して知る言葉の世界」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 秋山珠子
2. 発表標題 映画法以降の中国インディペンデント・ドキュメンタリー山形国際ドキュメンタリー映画祭2019を中心に
3. 学会等名 第13回日本映像学会アジア映画研究会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 村井 まや子、熊谷 謙介、菊間晴子、小松原由理、信岡朝子、鈴木宏枝、菅沼勝彦、秋山珠子	4. 発行年 2024年
2. 出版社 青弓社	5. 総ページ数 242
3. 書名 動物×ジェンダー マルチスピーシーズ物語の森へ	

1. 著者名 (著) 侯孝賢、卓伯棠、(訳) 秋山珠子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 みすず書房	5. 総ページ数 344
3. 書名 侯孝賢の映画講義	

1. 著者名 (編著)土屋昌明、(著)下澤和義、根岸徹郎、井上幸孝、マーク・ノーネス、劉文兵、秋山珠子、山口俊洋	4. 発行年 2022年
2. 出版社 専修大学出版局	5. 総ページ数 406
3. 書名 専修大学社会科学研究所 社会科学叢書24 異文化社会の理解と表象研究	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>【研究成果に関するWebページ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Chinese Independent Cinema Observer (CICO), Issue 1 Sino-Japanese Connections / 《華語独立影像觀察》第一期：当代日本-中国独立電影文化的關聯 (1989-2020) https://www.chinaindiefilm.org/issue-1-sino-japanese-connections-in-independent-film-cultures-1989-2020/ ・ 《華語独立影像觀察》発刊儀式以及“当代日本-中国独立電影文化的關聯”網絡論壇 https://www.youtube.com/watch?v=MXTNDkj10sE&t=32s ・ Storied Environments 物語る環境 https://www.kanagawa-u.ac.jp/news/details_25824.html ・ 秋山珠子等「アジア映画研究会」『日本映像学会報』199 https://jasias.jp/wp-content/uploads/2024/02/JASIAS_NewsLetter199.pdf ・ 秋山珠子「日本と中国インディペンデント映画文化のコネクション」公開オンライン・シンポジウム https://www.repre.org/repre/vol43/topics/akiyama/ <p>【報告者/研究内容が言及されたWebページ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 集体瑜伽+ 読書会：秋山珠子分享漢娜・阿倫特《黑暗時代的人們》 https://mp.weixin.qq.com/s/lkSzR1w7Nx9ys6_4vNSmbg ・ 章夢奇筆記20 (湖北随州釣魚台村)：偉大激情与講故事 https://mp.weixin.qq.com/s/f12-QT6XwTgN_-3J4TrB0w ・ 章夢奇，「草場地工作站：戰地医院、探照灯、方舟」，凹凸鏡DOC https://www.thepaper.cn/newsDetail_forward_8877427 ・ Zhang Mengqi, "Keyword: Workshop 'Feelings guide the way, rational though lights the way': My Workshop Notes", Chinese Independent Cinema Observer, Issue 3 https://www.chinaindiefilm.org/keyword-workshop-feelings-guide-the-way-rational-though-lights-the-way-my-workshop-notes/
--

6. 研究組織	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計5件

国際研究集会 Storied Environments 物語る環境 (神奈川大学)	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 Online Forum “Sino-Japanese Connections in Independent Film Cultures” (オンライン)	開催年 2021年～2021年
国際研究集会 中国インディペンデント映画の位相空間—映画「之子于歸」上映と張獻民氏との討論 (東京大学)	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 ボーダークロッシングアジア 国境を越えるインディペンデント映画製作を再考する (オンライン)	開催年 2020年～2020年
国際研究集会 台所のダンス 居間のファンタジー パンデミック下の開かれた密室 (神奈川大学)	開催年 2023年～2023年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
ドイツ	C/LENS	アイ・ウェイウェイ・スタジオ	カッセル・ドクメンタ	
米国	ミシガン大学中国学研究センター	現象工作室	ハワイ国際映画祭	
中国	草場地工作站	上海国際電影節	騰訊新聞穀雨計劃	他1機関
英国	Chinese Independent Film Archive (CIFA)	Newcastle University		
その他の国・地域(台湾)	台湾国際ドキュメンタリー映画祭			
その他の国・地域(香港)	香港中文大学	中国独立記録片研究会		